

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 池内 健悟
所属 (School) 工学研究科 電気・情報系専攻
学年 (Grade) 博士前期課程 1 回生

留学先 (Name of overseas institution)
カナダ・トロント
留学期間 (study abroad period)
2017/9/23~2017/9/28

記入日 (Date) 2017/10/3

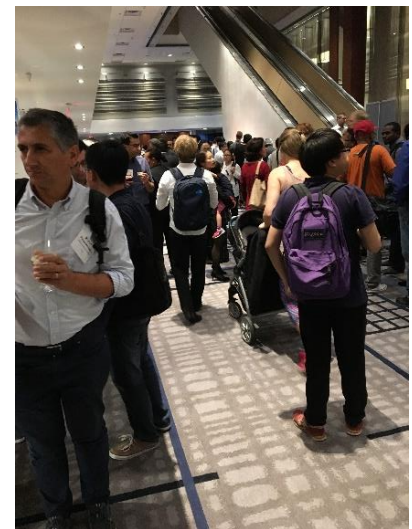
留学レポート Study Abroad Report

2017年9月24日から9月27日にカナダのトロントで開催された国際学会【IEEE 86th Vehicular Technology Conference】に参加し、トロント大学に講演会を聞きに行きました。私は今回の国際学会の参加が国内外問わず初めての経験であり、不安な気持ちはありました。しかし、それ以上に期待と多くのことを学んでやるという意気込みのほうが大きかったです。このような意気込みの下、私がどのように過ごし、何を感じたのかをお伝えしようと思います。

① 国際学会に参加して

初めての学会参加ということでどのような雰囲気なのかかわからず、不安な気持ちで会場へ行きました。会場はヒルトンホテルで地下のフロア全体が談話室ようになっており、そのフロアの各部屋で発表やワークショップなどが行われていました。ワークショップでは最新の研究内容や、研究動向などを知ることができました。例えば、NOMA というパワーを変えることで信号を多元接続する方式が注目を集めておりあらゆる分野で応用しようとする動きを感じ取ることができました。

談話室では教授や学生が研究のことについて話し合っていたり、雑談が行われたりと非常に和やかな雰囲気で少し安心しました。発表に関してですが、オーラル発表とポスター発表の二種類があり、私はオーラル発表でした。発表をするだけなら原稿を事前に準備をしておき、それを覚えるだけで事足りるのですが、問題は質疑応答の時間でした。今回の質疑応答の時間では相手が言っている英語が聞き取ることができなかつたり、聞き取ることができたとしても答える言葉を思いつかなかつたりと散々な結果で教授に手助けをしてもらいました。私がこの学会を通して一番痛感したこととしては私の英語力の低さでした。国際学会には様々な国の方々が参加していましたが、どの国の人であっても、学生であっても当たり前英語を使いこなして話しているように思いました。



会場の様子

しかし、まったくコミュニケーションが取れないというほどではなく、ある程度の会話をすることはできたので、自信につながり、もっと英語を勉強しようというモチベーションにつながりました。

②大学訪問について

トロント大学の訪問で感じたことはまず多くの国の学生が在籍しており非常にグローバルだと感じました。アジア系の人やヨーロッパ系の人たちも多くその学生たちが一緒に下校している姿は日本の大学ではあまり見られないものであり、新鮮で面白いと感じました。

講演会ではセンサネットワークにおける不正アクセスに関する検知法についての内容で、私は無線通信の送信技術について研究しているのですが安全面に関して意識したことがなく今後の研究で考慮していくべき点だと感じました。

トロント大学の学生は非常に積極的であると感じました。日本では講演会の後の質疑応答であまり手が上がらないのに対して、トロント大学での講演会では学

生からの質問が多く、わからないことがあれば発表の途中でも質問していて驚きました。受け身で講演会を聞くのではなく能動的に聞いているのだなと感心させられました。

③学会へ参加するための準備について

英語でのスライド発表を行うことが初めてで、事前の準備には苦労しました。特に発表で用いる英語というものに関して知識がなく、どのような言い回しをするのが一般的なのかが分からず苦労した。大阪府立大学では、国際学会に参加する学生に対して、ネイティブスピーカーの方から直接指導を受けることができます。私はそれに参加することで、学会での英語の表現や、わかりにくい単語や発音の指導をいただき、それをもとに発表原稿を修正することができたため、参加してためになったと思う。

今回の国際学会参加は良い刺激を受けることができたと思います。自身の英語能力を見直すきっかけにもなり、研究や講演会での姿勢についても考え直す機会となりました。国際学会に行きたいけど不安だと思っている方はぜひ行ってみることをお勧めします。今しか得ることができないものを得ることができると思います。



オーラル発表



トロント大学